５月アンガージュマン日程

やっと一息です。連休は少し休みます。いよいよﾌﾘｰｽﾍﾟｰｽが始動します、御利用下さい。

月(Mon)	火(Tue)	水(Wed)	木(Thu)	金(Fri)	土(Sat)	日(Sun)
※	※	※	※	※	1 Pm1 未来	2 ※
3 ※	4 ※	5 ※	6 フリースペース 学習支援	7 フリースペース 学習支援	8 Pm1 ウィル	9 ※
10 フリースペース 学習支援 Pm7人間講座	11 フリースペース 学習支援	12 フリースペース 学習支援 Pm7事務局会議	13 図書館へ行こう フリースペース 学習支援	14 フリースペース 学習支援	15 Pm1 未来	16 学習支援 体験デー 10時～15時
17 フリースペース 学習支援	18 フリースペース 学習支援	19 スポーツデイ フリースペース 学習支援	20 フリースペース 学習支援	21 フリースペース 学習支援	22 PM1:30 カウンセリング講座 Pm4カレーの会	23 Ｐｍ３父親の会
24 フリースペース 学習支援	25 フリースペース 学習支援	26 フリースペース 学習支援	27 ハイキング フリースペース 学習支援	28 フリースペース 学習支援	29 Pm1事務局会議	30 助成金 プレゼン
31 フリースペース 学習支援	※	※	※	※	※	※

年間活動計画もできました、一度手にとって各自の利用を具体化下さい。

○5･16(日)学習支援体験デー　10時～15時　※別紙参照

学習への不安はありませんか？授業がわからないまま、教室で授業を受ける･･･？　つらいですね。学校を時々休み、飛び飛びの学習で理解が不十分･･･？　頭が痛くなりますね。もちろん、不登校で学校へ行っていない人たちは、不安だらけだと思います。でも、大丈夫ですよ！！

私たち、学習支援スタッフは、一人一人の学習の悩みや不安に寄り添いながら、一人一人の理解と努力を支援したいと思います。笑顔と分かりやすさで･･･。

さて、5月16日(日)の昼間、私たちスタッフが、無料で学習体験を提供したいと思います。希望の方は、中学生1時間1教科(5教科から)、小学生は算数か国語、予約を待っています。

○ご案内　カウンセリング講座「自分発見の心理学」開講します

気づかなかった自分と出会い、身近な人との関係を見直そう。自分を深く知ることは、人を理解する一番の近道です。新しい自分との出会いは身近な人との関係を変えていきます。

○第1期5･22(土)、　6･26(土)、　7･24(土)　　**時間は毎回午後1時30分～3時30分**

○第2期9･25(土)、10･23(土)、11･27(土)　　※詳細は、アンガージュマンへ

○第3期1･22(土)、　2･26(土)、　3･19(土)　　TELください。

講師：アンガージュマン専属カウンセラー(渡辺悦子･岡田啓子)

２００４（平成１６）年４月３０日発行　　発行責任：小柳良　　編集責任:滝田衛

Engagement Yokosuka

ＮＰＯ法人通信 No.３

アンガージュマン･よこすか

4月3日(土)、「アンガージュマン･よこすか」は、開設式(オープニングセレモニー)を行いました。前日までの雨も止み、好天に恵まれた上町には、来賓の方々24人には、9時30分頃から次々と足を運んで頂き、予定の10時には開設式を始める事が出来ました、緊張の中･･･

この上町から、誰でもが生きる権利を

既に朝日･神奈川新聞、FM横浜が、当日もTVK(テレビ神奈川)と毎日新聞が取材をしてくれましたので、スタッフ一同は喜びと不安の声を上げました。(翌日は読売新聞の取材がありました)

高木(NPO法人理事)さんの司会で開会し、代表：小柳は「この上町から、子どもと若者の笑顔を、そして僕たちの笑顔を発信していきます」と挨拶し会は始まりました。初めに地元の上町商盛会会長の宮原茂さんが「ふれあいを大切にしている町、人との出会いが大切です。県市の助成を受け、このようなお手伝いが出来たことは、商店街の中にあるからこそ。社会貢献と商店街の活性化を進めたい」との挨拶の後、アンガージュマン･よこすかレリーフを除幕頂きました。

来賓を代表して教育委員会生涯学習部長：根市和夫様が「かねてより市適応指導教室スペースゆうゆうへのバックアップを頂いてきた方々に感謝いたします」との前置きの後、「地域コミュニティーの中にこの様な施設が設けられることは画期的、本市の施策と連携できることを嬉しく思います」との副市長：森田常夫様のご挨拶を代読頂きました。続いて、横須賀市議会議員原田章弘(上町の教育経験市議)氏には「今はヒューマンリレーションの時代、顔の見える関係が大切です。失われているヒューマンリレーションは、フリースペースでこそ出来る、ここは重要な場所です」と積極的な評価を頂きました。しっとりとした時間が過ぎて行く中で、最後に神奈川県ボランティアセンター所長：熊谷豊壽様が「これだけ多くの人が集まってスタートするのは珍しい。成功を期待しております」と結び、最後に来賓の方々全員を紹介し、祝宴に移っていきました。

改めまして、ご支援ご協力に感謝し、来賓の方々の教えに学びながら、スタートします。

開設式の写真ファイルから

【除幕する宮原氏】

【祝宴の来賓の方々】

【理事･スタッフ紹介】

会員60人越えて、利用者も少しずつ

4月5日（月）の開設以来、予想をはるかにこえた多くの方々に利用していただいております。スタッフはうれしい悲鳴をあげています。相談の方は涙を流し、通室の子どもたちは何をしようか迷い、若者たちは何かをやりたくって・・・。いずれにしても、ゆっくりとした時間、穏やかで心安らぐフリースペースを共有できると良いと思います。ここまでの利用者とスタッフからメッセージです

県立大学で駅を降り線路沿いに少し歩くと、聖徳寺の坂の中ほどになります。私はガード下の信号のない横断歩道を自分の目と判断力を駆使して渡ります。街路樹のひめしゃらの若葉が毎日大きくなってくのを眺めながら、坂を上る時、私は何だかちょっと胸を張って歩きます。

スタッフ：吉本照子

半年前の私には、家庭の外に居場所がある、仲間と呼べる人がいるなんて、とても想像することは出来ませんでした。これからも、アンガージュマンでの出会い・活動を通じて社会に繋がる力をつけていきたいです。

利用者：石原さん

私は、去年の11月まで、社会的ひきこもりだった。人を信用できなくて、生きる目標を見失っていた。けど、アンガージュマンの温かい人たちと過ごしているうちに、イキイキとした生活に変わってきて、今はとっても幸せで～す。

利用者：鈴木恵さん

フリースペースの奥、壁一つ隔てたところに木のぬくもりのある机が並んでいます。ここに、私の専用の居場所があります。ひとり机に向かっていても、スタッフや来室の方の声、足音、CD から流れる曲、水道や、冷蔵庫の開閉の音まで、なぜか不思議に自然で落ち着く空間です。ここで、学習に悩んでいたり、不安な子ども達が少しでも元気になってくれればいいなあ～と願って。スタッフ山川幸子

学校に行けるようになった君。でも、無理しないようにね。今まで頑張ってきたんだから。社会に出られない君。あまり自分を責めないで今のままの君を好きになってください。
ひきこもりの経験を皆の前で話してくれた君。ありがとう。君の勇気に感謝します。
開設して一ヶ月たらずですが、アンガージュマンを訪れた多くの人々がこのさわやかな季節の中で「私は一人じゃない」と、感じてくれることをスタッフ一同願っています。

代 表 ： 小 柳 良

発足しました父親の会「DAD（ダッド）」

未来もウィルも母親が中心でした。父親の悩みや迷いを話したい！　その思いを会員の父親たちが具体化しました。4月24日（日）の昼下がり、7人の仲間が集まり発足しました。「特効薬はないか？」「我がままと思うが否定できない」との率直な意見を交わしながら、父親としての成長を誓い合いながら、2時間の発足の会を閉じました。

次回は、5月23日（日）午後3時、毎月第4日曜日、気軽に本音を持ってお集まりください。

ウィル・よこすか（ひきこもり親の会）の定例会より

家から出る、親を責める、ひきこもりを理解するとは？・・・

4月10日（土）には、14人の当事者の親、当事者が4人、スタッフ2人の20人が参加して行われました。ゲストと言うことで、当事者の方に参加頂き、スタッフがインタビューする形で、親たちに語ってくれました。ありがとうございました。なお、新たに星野・三澤さんが運営役員に加わってくれることとなり、代表：勝又さん、副代表：幸嶋さんに加わって運営委員会を担います。早速、終了後の運営委員会では、「いつも当事者が参加？」、では親たちが思いの丈を話せませんので、次回よりゲストを招く時は別として、親たち以外はクローズにすることを決めました。

「ウィルが立ち上がってから早1年。上町に移転して2回目の定例会でした。この日は新聞に何度か取り上げられたこともあり新しく見えた方も何名か参加されて和やかに進行しました。当事者の方の参加も何名かありました。熱く心境を語られ、皆真剣に耳を傾けて考えさせられました。最近常々思うのですが、不登校・ひきこもり（この言葉、他に何か適切な言葉がないものでしょうか？）に対して世間の反応が過剰すぎる感があります。合わないものに無理して合わせようと頑張りすぎた結果、本人が必要以上に苦しまなければならなくなり、親も子どもと社会との狭間で苦しまなくてはならなくなる悪循環。いろいろな価値観があり、柔軟に認める発想があれば起こり得ない不幸です。合わないワールドに無理しすぎ疲れたなら、他のワールドに横っ飛びワープすればいい！　そこでエネルギーを補給して自分の価値観を守りながら、社会と折り合いをつけていけばよい。生きづらくなった人が出来るだけ生きやすくなる様なお手伝いができる空間と実績と現実的な企画を、アンガージュマンが担い実践してもらいたい。わくわくしながら、今後も取り組んでいきたいと思います。

（ウィル運営委員：三澤まり）

『未来』通信 春風を背に受けて～

卒業・進学・進級の季節も一段落といったところでしょうか。ボランティアグループ「未来」も、アンガージュマン・よこすかに拠点を移し、落ち着きつつあります。この間に定例会に持ち寄られるお話の中にも、“区切り”への思いや変化がうかがわれます。

・高校へ進学したものの、まだ動き出さずにいる。
・最終学年になったけど、これからどうするかはまだ言葉にしない。
・不登校という状態に、周囲の無理解が親には重い。
・高校入学やクラス替えなどを機に、元気になってきた。

つぼみ語録

☆入学した高校で。「あなたはこの学校に選ばれて来たんだよ。」と高校の先生が。
☆高校入試の面接で、不登校について尋ねられ、「何も無駄はありませんでした。」と答えた本人に対して、面接の先生が「そうだね。だから、ここにいるんだね。」と。

不登校って、見た目にはかなりとらえにくいですけれど、でもその向こう側で確実に子どもたちは成長しているんですね。（「未来」事務局長：三浦恵子）
＊尚掲載したエピソードはご本人の了解を得ております。